

教育目標	
遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 小規模園である本園では、昨年度から人とかかわりに重点を置き、主体性や豊かな感性の育成に力を入れてきた。今年度は特に年長児が6名と大変少なく、また、穏やかな子どもが多いため、できるだけ日常的に人とかかわる機会を増やし、トラブルも経験させたいと考え、未就園3歳児を含めた全園児がかかわれる場として園庭の環境設定に力を入れてきた。中でも、「やってみよう」という意欲を育てる場づくりについては、教職員間でねらいや意図の共有を丁寧にはかり、年間を通して環境図を用いて協議を重ねてきた。 前向きに取り組む子どもを育てる保育を続けてきたことで、初めてのことや苦手なことに消極的であって子どもも、「やってみよう」と自ら取り組む姿が見られるようになった。教師の励ましや見守りを支えにのびのびと遊びを楽しむ4歳児、友達と互いに刺激を受け合い、励まし合いながらさらに挑戦を重ねていく5歳児など、年齢や発達に応じた育ちが見られた。 次年度は、何事にも前向きに取り組む今の子どもたちの姿を大切にしつつ、友達関係にも前向きな姿勢をもてるようにしていきたい。特に、来年度は様々な国籍や文化をもつ子どもが多く在籍するという現状があるため、言葉だけのつながりではなく、「思い」や「心」を大切に取り組んでいきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 京極幼稚園の教育では「遊び」を大切にしている。子どもたちが遊びを通して、様々な力を身につけていくことや友達と交わり関係を深めていくことが、幼児期の発達にとってとても大事なことだと考える。年間を通して、折々に園児の姿を見るにつけ、2年間で大きく成長していることが実感でき、特に、3月の修了式では、毎年、立派な姿を見ることができる。このことは、日々の生活や遊びの中で、子どもの発想や思いに寄り添い、丁寧に対応している教師があるからこそその育ちであろう。 来年度、外国籍の子どもが増えるので、その子どもたちともしっかりとかかわることで、文化の交流が生まれ、子どもたちの世界が広がるのではないかと期待している。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年9月26日	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価	令和7年2月20日	京極幼稚園学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・クラス、異年齢、未就園児、保幼小など、様々な子どもとの関わりの中で、具体的な子どもの姿を記録し、『自分らしさを発揮して前向きに取り組む子どもの育成』をめざし、『「やってみよう」という意欲を育てる環境や援助』に着目して、教員同士での日々の反省評価から、具体的なよりよい保育の手立てを考える。
- ・幼児が主体的に夢中になって遊びこめる生活や活動、行事について検討、実践をし、次の取組につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、園内研修等で子どもの姿の変容について話し合った。
 - ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容について協議を行った。
 - ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D）
- ① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。A81.3%B18.7%C0%D0%
 - ② 子どもは、幼稚園での遊びを楽しみ、自らやってみようとしている。A81.3%B18.7%C0%D0%
 - ③ 子どもは、先生や友達とかかわる中で、嬉しさや悲しさ、悔しさなど、様々な感情を味わっている。A75%B25%C0%D0%
 - ④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞こうとしたりしている。A50%B50%C0%D0%
 - ⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A81.3%B18.7%C0%D0%
 - ⑥ 子どもは、手洗いやうがいなどの生活習慣、身の回りの始末を自分でしようとしている。

A50%B50%C0%D0%

自己評価

分析（成果と課題）

エピソードや研究保育を通して、子どもの姿の変容を見取り、子どもが意欲的に取り組むための環境や援助の在り方について学び合うことができた。

アンケートにおいては、すべての項目についてすべて A・B 評価であった。特に、子どもの安心感、意欲、自然とのかかわりについての項目では、8 割以上が A 評価であり、幼稚園の取組、子どもたちの育ちについての理解がなされていることが伺える。自由記述においても、園での教育活動にご理解・ご協力をいただいている表記が多く見られた。友達関係においては、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている一方、更にかかわりの深まることを望んでいるのではないかと推測される。

生活習慣においては、他の項目に比べて B 評価が多く見られる。

分析を踏まえた取組の改善

例年、アンケートの数字や自由記述でも高評価を得ているが、今後も、個々の子ども・保護者と丁寧にかかわっていくことが大切である。子どもたちは、自分たちで遊び始める姿が見られるようになり、その中で友達と思いがぶつかる姿も増えてきている。その姿を成長のステップと捉え、子どもの思いに寄り添い、様々な感情体験ができるよう援助していく。

生活習慣においては、日々の保育での個別の援助や保健指導などを通して、子どもが必要感をもって取り組めるようにすると共に、家庭と園とで連携しながら共に支えていく。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・少人数の園を生かして、子どもたちが手厚くサポートされているように思う。小規模園であることの良さもあった。 ・幼稚園のカリキュラムについて、またその問題点や解決策などについても知りたいと思う。(例えば、昔より子どもの体力が落ちてきているなどの話を聞くが、園ではどのように工夫しているのかなど) ・子どもたちがとても楽しそうに過ごしている。また、先生方がめあてをもって保育していることも伝わり、とても良いと思う。 ・良い生活習慣(例えば歯磨きなど)は、4歳児の時の取組から更に継続して行っていくと良いと思う。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・週案の反省やエピソードの検討を通して、園内研修等で子どもの姿の変容について話し合った。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容について協議を行った。 ・アンケート項目(大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD) ① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して自分を出せている。A77.8%B22.2%C0%D0% ② 子どもは、幼稚園での遊びを楽しみ、自らやってみようとしている。A66.7%B33.3%C0%D0% ③ 子どもは、先生や友達とかかわる中で、嬉しさや悲しさ、悔しさなど、様々な感情を味わっている。A72.2%B27.8%C0%D0% ④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞こうとしたりしている。A50%B50%C0%D0% ⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A55.6%B44.4%C0%D0% ⑥ 子どもは、手洗いやうがいなどの生活習慣、身の回りの始末を自分でしようとしている。A72.2%B27.8%C0%D0%
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 アンケートでは、全項目においてABのみという高評価であり、『自分らしさを発揮して前向きに取り組む子どもの育成』をめざす本園の教育に対する理解が得られているという結果となった。園内研修の場でも、計画的に環境を見直し、教職員間の連携を十分にはかることで、子どもたちに「やってみよう」という意欲が育ってきていると実感している。 分析を踏まえた取組の改善 小規模園であることを前向きにとらえ一人一人を大切にしてきたこと、また、教職員同士が密に連携をとりながら、未就園3歳児も含めた異年齢同士のかかわりやつながり意識した保育を行ってきたことで、子どもも保護者も安心感と信頼を得ることができたと思われる。取組の良さを来年度も継続しつつ、更に友達関係の深まりをめざしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・自分でやってみようという子どもが増えて、活動的だと思う。 ・来年度園児が増加することや多国籍の子どもたちと一緒に生活することで、子どもたち同士のかかわりが深まり、仲よく園生活を楽しんでいく姿があることを楽しみにしている。

価	・遊びは学びの基礎となる。日本の伝統的な行事に触れる機会を大切にするとともに、PTA やおやじの会の活動を通して、異文化に触れる機会ももてると良い。保護者同士が仲よくなることで、子どもたちもより仲よくなれると思う。 ・幼稚園の生活を家庭で話さない子どももいるので、評価しづらい項目もあると思う。
---	--

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組	
・ 保幼小で、交流についての年間計画やチーム分けを検討、作成する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。(京極小学校・鶴山保育所) また、交流保育の在り方を考えながら、保幼小の交流保育を進める。(室町小学校) ・ 互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、架け橋期のカリキュラムの検証及び修正を行う。(京極小学校)	
(取組結果を検証する) 各種指標	
・ 年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。 ・ 小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。 ・ 就学前の情報交換 (支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継)。 ・ アンケート	

中間評価

各種指標結果	
・ 年間交流計画を作成済。 ・ 小学校 (京極・室町等)、鶴山保育所との保育、授業を通しての交流 4 回とその事前・事後研修実施、授業参観 4 回実施、保育参観 3 回来園、合同研修会 2 回実施。 ・ 京極小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの検証・修正中。 ・ 就学前の情報交換 (支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継) は後期実施予定。 ・ アンケート項目 (大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D)	
⑨幼稚園は保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。A62.5%B37.5%C0%D0%	
自己評価	分析 (成果と課題) 交流保育については、年間計画の作成から事前・事後研修の実施も含めて、忙しい時間の中でもしっかりと実施することができており、互いの授業・保育の参観やその後の協議など、積極的に実施している。また、架け橋期のカリキュラムについても、昨年度作成したカリキュラムの年間を通しての見直しを実施中である。 アンケート結果でもおおむね良好である。
	分析を踏まえた取組の改善 交流保育及び小学校との連携については、大変充実した取組ができていると思うので、後期も続けていきたい。京極幼稚園での架け橋期の教育に向けての取組については、保護者に対して更に積極的に発信していきたいことであるので、降園時に担任から意識的に伝えるようにしたり、ホームページ等でも発信を続けたりしていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・ 京極、室町等の小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同

	研修会の実施回数。 ・小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの検証・修正状況。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。 ・アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・事前・事後の研修をした上での交流保育であることが素晴らしいと思う。 ・保幼小の連携が歴史的に長く行われていることがこの地域の素晴らしい特色であると思う。今後も、このつながりを大事にしながら、互いに向上していけるようにと願っている。 ・京極小学校との交流が盛んであるが、同じように室町小学校との交流の実施も回数が増えたと良いと思う。室町小学校区からの入園も増えるのではないかな。 ・自分が進学する学校でなくても、小学校との交流で親しみを感じたり学校での生活を体験したり（例えば給食交流やプール交流など）することができれば、安心感につながると思う。 ・1年生の保護者対象で給食試食会が実施されたが、年長児の保護者も入園前に小学校の試食会に参加できると、給食に対しての安心感が増すのではないかなと思う。また、年長児に対する給食交流会があれば、実際に入学する学校でなくても、給食とはどういうものかを知ることができ、安心感につながると思う。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流6回。小学校運動会や授業参観への複数回参加。 ・小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの検証・修正中。 ・就学支援シートの提出。就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）を3月実施予定。 ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） ⑨幼稚園は保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。A83.3%B16.7%C0%D0%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 アンケートでも、前期よりA評価が増え、8割以上の方が大変そう思うと評価している。京極小学校との交流保育に4歳児も参加するようになったことや、京極・室町小学校との交流保育の実施やその時の様子、子どもの育ちなどを発信していくことで、連携の意味や大切さを理解してもらえるようになった。 実際、交流やその事前・事後の研修、保育・授業の参観を通して、教員同士のつながりも実感できるようになってきている。鶴山保育所とは、互いの作品展にそれぞれ全教員が参加し、作品を通して学び合う機会を得た。 分析を踏まえた取組の改善 今年度は、京極小学校の1年生担任と京極幼稚園の年長担任が昨年度と変わらなかったことで、お互いに既に十分な関係ができている上での取組を進めることができたことは大きな要素であったと思われる。来年度以降も充実した取組を進めていくためには、組織的に運営していくことが大切である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・交流も積極的に取り組んでいると思う。子どもにとって幼小連携はとても良い影響を与えていると思うので、継続して行ってほしい。 ・小学校に通う子どもから、京極幼稚園との交流を楽しみにしているとの声が聞かれた。子ども

価	たちの心の中に、親しみの思いが育っていると感じている。 ・幼稚園のうちに保育所や小学校との交流を重ねることで、親しみを感じたり仲よくなったりできることが入学してからの安心に繋がっている。 ・1年生との交流だけでなく、他の学年との交流の機会ももてたら良いと思う。
---	--

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	
・一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実かつ丁寧にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする。 ・異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカー体験やつくって遊ぶ活動など、特別プログラムも計画する。 ・保護者のニーズに沿いつつ、子どもにとってよりよい関わりを共に考えていく。 ・早朝預かりから18時までの長時間保育の在り方について考える。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を念頭において）。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート	

中間評価

各種指標結果	
・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返りの実施継続中。 ・預かり保育の参加のべ人数（4月83名 5月102名 6月134名 7月151名 8月71名 9月151名） ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）利用者のみ回答 ⑦ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。A60%B40%C0%D0%	
自己評価	分析（成果と課題）
	昨年度に比べ各月とも利用率が増加しており、今年度は朝の預かり保育も継続して利用が続いている。4歳児の利用が多く、3歳児も数回ではあるが、4月からの利用が始まった。17時以降の利用者が特定されており、1名だけになることが多い。
	分析を踏まえた取組の改善 預かり保育は利用率も多く、楽しんで参加している様子が見られる。3歳児から利用できるようになったことで、カリキュラムの見直し、修正を行った。 17時以降に残る子どもが特定されていることで、日によって、寂しく思う姿が見られる。子どもの思いに寄り添い受け止めながら、子どもが興味をもって取り組める活動や環境を工夫し、少しでも安心して楽しめるような取組を考えていく。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・イベントや個別の活動をうまく活用していると思う。 ・教育時間の前後に預かり保育をしているという現状は、いろいろと難しい面もあり大変だとは思いますが、解決策となるとこれと言って中々あげられないことがもどかしい。 ・長時間預かり保育は、入園につながる大きな要素であると思われるので、継続していくことを期待している。 ・まだまだ、幼稚園で早朝預かり保育や18時までの預かり保育を実施していることを知らない子育て世代も多い。保育所でなければ…という発想になりやすいので、やはり、アピールしていくことが大切であると感じる。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・教育活動のカリキュラムの事後の振り返りの実施継続中。 ・預かり保育の参加のべ人数 (10月 173名 11月 157名 12月 141名 1月 174名 2月 124名) ・アンケート項目 (大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D) ⑦ 子どもは、おひさま広場 (預かり保育) を楽しんでいる。A77.8%B22.2%C0%D0%
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 後期も利用率は高く、前期よりも大幅に増加している。通常は4歳児の利用が多いが、イベント実施日はどの学年も利用率が高く、ほぼ全園児が参加している。3歳児の利用も、今年度は兄と共に参加できる子どものみの利用であったため、無理なく実施できている。 16時以降に利用する子どもは決まっており、その中で年齢に関わりなく関係が深まってきている様子が見られるが、17時以降の利用はほとんどなく、決まった1名が担当者と二人で過ごすことになっている現状がある。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 日常的な遊びについては、今後も充実を図っていく。また、今年度初めて取り組んだ、図書館による読み聞かせや移動図書館「青い鳥号」の活用については、子どもたち、保護者から大変好評であったので、来年度も継続して取り組んでいく。
	学校関係者による意見・支援策 ・様々な工夫をしていて、子どもたちは楽しんでいると思う。 ・夏季休業中の預かり保育は天候・気温のこともあり中々思う通りの活動ができない面もあると思うが、涼しい部屋の中で十分に遊ぶことでも充実した過ごし方ができるのではないかな。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組 ・0～3歳の未就園の親子のクラス (ひよこ組)、2歳児親子 (ぷちうさぎ組) が3歳児クラスの子どもや在園児と関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。 ・未就園3歳児の預かり保育を安全にかつ安心して利用できる計画を作成する。 ・在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。 ・取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多くの親子に参加してもらえるようにし、入園者増加につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。
- ・未就園 3 歳児の預かり保育利用人数。

中間評価

各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば回 1 実施。
- ・未就園児保育の利用者（登録者）数。 3 歳児うさぎ組 3 名、2 歳児ぷちうさぎ組 8 名、0～3 歳児ひよこ組 14 名（ぷちうさぎ組 8 名含む）
- ・未就園 3 歳児の預かり保育参加のべ人数（4 月 4 名 5 月 11 名 6 月 14 名 7 月 17 名 8 月 7 名 9 月 15 名）

自己評価

分析（成果と課題）

今年度も、うさぎ組は欠席もほとんどなく、安定して通園している。預かり保育も、子どもの様子を見ながら利用していて、在園児の預かり保育時間までの弁当時など、3 歳児の担当者が継続して預かり保育を受け持つことで安心して過ごしており、兄弟で降園時刻を合わせて利用している様子が見られる。

ぷちうさぎ組は、昨年度より多い 7 名の登録があるが、ひよこ組の登録者は昨年度よりも更に減少している。

分析を踏まえた取組の改善

0～3 歳児のひよこ組の登録者は少ない状況であるため、広く周知できるようInstagram やホームページ等を活用してきている。また、保護者の方の力を借りて、各施設やイベント時などに、広報活動を進めている。後期には、在園児の保護者や園長と未就園児の保護者がざっくばらんに話せる機会をつくっていかうと企画している。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。
- ・未就園 3 歳児の預かり保育利用人数。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・未就園児の取組のポスターが大変見やすく良いと思う。（昨年度 PTA 作成のもの）
- ・Instagram を活用してがんばってきている成果が出ていると思う。Instagram は園での様子がとても伝わりやすいと思うので、より多くの方に見てもらえるよう、QR コードを大きく印刷したポスターがあるとアピールにつながる。
- ・ホームページがきちんと表示されないことがある。子育て支援の取組を利用したい人などが、知りたいときにその情報を得られないのは良くないので、改善できたらと思う。
- ・ポスターや案内の掲示など、PTA の方が協力的で幼稚園を盛り上げていかうとしている様子が感じられ、すごいなと思った。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば 2 回実施。
- ・未就園児保育の利用者（登録者）数。 3 歳児うさぎ組 4 名、2 歳児ぷちうさぎ組 8 名、0～3 歳児ひよこ組 16 名（ぷちうさぎ組 8 名含む）

・未就園 3 歳児の預かり保育参加のべ人数（10 月 18 名 11 月 21 名 12 月 19 名 1 月 19 名 2 月 17 名）	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ほっこり子育てひろばは、少人数の園であるため、年度当初に年間の実施日を決めて申し込みしてもらおう方法で実施した。全保護者が申し込み、当日、急な都合で参加できなかった方を除き、皆が積極的に参加し、和やかな雰囲気の中、活発な話し合いの場となった。 3 歳児うさぎ組の子どもたちが 4 名と人数が少なかったため、今年度は例年以上に、在園児と一緒に遊ぶ機会を増やした。在園児との関係もでき、安定してのびのびと過ごしている。 0～3 歳児ひよこ組の登録は少しずつ増え、継続的に参加を楽しみにしている親子もいる。ただ、3 年保育園（他園）への入園が決まったり満 3 歳児保育に参加したりし始めると、2 歳児ぶちうさぎ組の登録者の利用が減るのは例年同じ傾向がある。
	分析を踏まえた取組の改善 ほっこり子育てひろばは、普段、余り話をしない保護者同士が話をする機会でもあり、毎回、予定の時間以上に話し込む姿が見られる。今後も、保護者が気軽に話ができる場として大切にしていきたい。 未就園児クラスについては、ポスターの掲示やチラシの配布など、保護者の協力も得てかなり力を入れてきたことが少しずつ成果として現れ、利用者が増えてきている。また、新しく保護者の協力を得て、月 1 回、未就園児の保護者が子育てについて相談できる日を設定したので、今後はこの取組についても十分な周知をしていきたい。 また、保護者の口コミやホームページ掲載の「保護者の声」などの取組の成果があり、次年度の入園者数は増加しているので、今後も、効果的な発信の仕方について検討を重ね、実施していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・地域の子育て支援施設「ほっこりはあと出町」との交流を深める方法を考えてみるのも良いのではないかな。 ・保護者が行ってみたいと思えるイベントを充実することができれば、更に参加者が増えるのではないかな。 ・小学校でも外国籍の子どもは増加している。外国籍の人から見た幼稚園に対する意見や、通ってみたいと思える要素は何なのか等を知ることが、充実した子育て支援や今後の入園にもつながると思う。 ・インスタグラムを通した活動の発信が成果を上げていると思う。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・学校運営協議会の持ち方、組織の充実を目指し、地域の環境や人材の活用に努める。 ・教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。 ・地域の高齢者施設や公園での集まりなどへの積極的な交流。 ・KKP での積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。
（取組結果を検証する）各種指標 ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。

- ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校運営協議会での地域の声の聞き取りを実施。
 - ・KKP への参加打ち合わせ含めて 4 回。教職員との情報共有。小中学校との公開保育・授業、研究会などへの呼びかけ。
 - ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D）
- ⑧子どもは、近隣への遠足や、地域の方々との交流を通して、京極地域に親しみを感じている。
A43.8%B56.3%C0%D0%

自己評価

分析（成果と課題）

学校運営協議会は、6 月に 1 回目を実施し、本園の運営方針や年間計画など周知し、理解を得ることができた。また、9 月に行った 2 回目では、ほぼ全員の方に出席いただき、評価についてのご意見も積極的にいただくことができた。

KKP の取組においても、「あいさつ運動」や互いの公開保育・授業への参加など、今年度も充実した取組を実施できている。9 月に実施した本園の公開保育では、小学校（京極小・室町小・新町小・西陣中央小）及び鶴山保育所から多数参加してもらうことができ、保育後の協議会でも活発なご意見をいただいた。

分析を踏まえた取組の改善

運営協議会は、幼稚園の現状についてご理解いただいた上で、毎回、多数のご意見をいただいている。今後も運動会等の行事や公開保育を通して、幼稚園での教育を発信していきたい。また、今年度は、公開保育についての案内を KKP の各校園（7 校 2 園）に発信することができ、前年度より多くの方に参観・研究協議会への参加をしていただくことができた。今後も、各校園との連携を深めていきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。
- ・KKP への参加回数及び教職員との情報共有の有無。
- ・アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域の中学校との交流は難しさがあると思う。中々かかわりが見えにくいので、今取り組んでいることを具体的に挙げていくと良い。
- ・地域の全世帯に配布する広報誌『京極だより』に幼稚園の取組（未就園児向けの案内など）を毎月掲載すると、より京極幼稚園にことを地域の方に知ってもらえると思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・学校運営協議会での地域の声の聞き取りを実施。
 - ・KKP の会合への参加と情報交流。
 - ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D）
- ⑧ 子どもは、近隣への遠足や地域行事、地域の方々との交流を通して、京極地域に親しみを感じている。A61.1%B38.9%C0%D0%

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 学校運営協議会では、2月に3回目を実施し、学校評価や幼稚園の教育活動について、今回もたくさんのご意見をいただいた。（学校関係者評価に記載） 京都御苑への複数回の遠足、賀茂川での凧揚げ、相国寺での毎朝のマラソンの取組など、地域の自然や施設、取組などに日常的に出かける機会があり、地域の保育所・高齢者施設・大学と交流、京極文化祭に参加したりすることを通して、子どもや保護者が京極地域への愛着や親しみを感じられる機会となった。特に後期は、4歳児も5歳児と共に地域との取組に参加することが増えたことで、保護者への認知度も高まり、A評価が増えたと考えられる。 また、KKPで取り組んだあいさつ運動や教職員の合同研修や参観を通して、地域の子どもを共に育むための連携を行ってきた。
	分析を踏まえた取組の改善 ホームページやInstagramを通して、地域とのつながりを積極的に配信してきたことが、アンケートの高評価につながっていると思われる。また、運動会や生活発表会など、学校運営協議会の方にも見ていただけるようにしたことで、直接、子どもの姿が見える機会がもてるようになったので、今後も続けて実施していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・進学に不安を感じているのではないかと心配していたが、子どもは「仲間がいるから大丈夫」と言う。保育所との交流を通して、同じ小学校に入学する「仲間」と意識していることに、交流の大きな意味を感じた。 ・同じ地域の就学前施設である幼稚園と保育所が、継続的に交流していることの意味は大きい。 ・今年度始めた公園体操（地域のお年寄りが集まって毎週体操をしている取組）への参加が良かったので、定期的に参加できると良い。お年寄りも元気になれるし、普段お年寄りとかかわる機会のない子どもにとっても有意義な取組であると思う。 ・地域の老人クラブと小学校とで定期的に昔遊びをする取組を行っている。幼稚園でもぜひそのような交流を検討してほしい。 ・地域の大きな行事である御霊祭が今年度、来年度と土日になってしまったことは残念だが、幼稚園の施設内にも御霊祭の行列が立ち寄ることは子どもにとって本物に触れる大切な機会であると思うので、今後も継続的に実施していきたい。 ・毎回、学校運営協議会の場で子どもにとってどうしていけばより良い幼稚園の在り方につながるかについて考え、情報交換していることをすぐに幼稚園の生活や教育の中に取り込んでいこうとしている姿勢が良い。

（6）教職員の働き方改革について

重点目標	教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。
具体的な取組	・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。 ・職員朝礼や職員会などの実施日を調整し、朝の準備や環境整備の時間を確保する。会議の精選、効率化を図る。

・誰が見ても分かりやすいよう資料や物品の整理・配置について見直し、業務の充実と効率化を図る。 ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在でとして認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高め、業務にあたるようにする。
(取組結果を検証する) 各種指標 ・会議や職員朝礼の実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。

中間評価

	各種指標結果 職員朝礼は、今年度より、週一回（火曜日のみ）の実施としたが、特に問題はない。教職員の勤務時間については、以前特定の教員に超過が見られるが、昨年度に比べて減少傾向にある。また、年休取得も、十分であるとは言えないが、ある程度の取得はできている。
自己評価	分析（成果と課題） 本務者の少ない小規模園において、本務者に仕事が偏ってしまうことを避けることが難しいという課題は依然として残る。年休取得については、通常保育期間での取得が難しく夏休みに取得が偏る傾向があり、原則夏休みに勤務がない職種の職員の取得確保と通常保育を安全に実施する勤務体制とのバランスが難しいという点は改善できていない。
	分析を踏まえた取組の改善 今年度、非常勤講師が1名増加したことで、加配教員がおらず担任（もしくは預かり保育担当教員）が一人で対応しなければならない時間が無くなり、数字にこそ表れてはこないが、教員の大きな負担軽減につながっている。少し余裕のある人的配置を生かし、連携を密にしながら保育を進めていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・会議や職員朝礼の実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。 ・前年度との比較検討。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生産性と心を育てることの両立は難しいと思うが、まずは、教職員の心身の維持を優先することを考えていくようにすると良いと思う。 ・教育の充実を考えると、会議や職員間の意思疎通は大切であり悩ましい問題だと感じるが、会議の縮小など今後も工夫していくことが大事である。 ・早く帰宅できるようにする、遠慮なく休みを取るなどの意識をもつことも大切である。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 職員朝礼は、金曜日の週1回実施とし、翌週の予定を中心に実施した。その様子を動画で収録し、出勤時刻が異なり職員朝礼に参加できない教職員は、各自、金曜日中に視聴することで情報の共有をはかっている。職員会議については、大きな変化はない。 今年度、行事予定や園だよりの原稿作成や飼育動物の世話など、非常勤講師も受け持つようにしたことで、担任が保育準備等の時間を確保することができるようになっている。また、勤務時間は特定の教員に超過が見られる傾向は変わらないが、昨年度よりも少なくなっており、年休取得状況につい

でも十分とは言えないが、昨年度より向上傾向にある。	
自己評価	<u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u> 職員朝礼の実施方法を変えたことにより、各々が把握しやすく、また、改めて確認の時間をとる必要がなくなり、働き方改革につながっている。 特定の教員に負担がかかりがちである傾向は改善されていないが、非常勤講師や校務支援員の活用を見直すことで、昨年度より改善されている。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> 今年度、非常勤講師が1名増加したことをきっかけに、非常勤講師・校務支援員・総合育成支援員等の仕事の内容や配分の見直しを行ったことで、各々の仕事の効率が良くなり、全体として教職員全体の負担軽減にもつながっているので、来年度、更に見直しを行いながら継続していきたい。また、職員間の関係も良好であり、明るい職場環境となっていることが、働き方改革の視点からも良い効果をもたらしていると思われるので、このまま大切にしていきたい。
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> ・今年度、退勤時刻を定時に近づけることができているようなので、引き続き、早く帰宅できるよう効率化をめざしてほしい。 ・令和6年9月26日の学校運営協議会でリーフレットの配布を行い、教職員の心身の健康維持の重要性についての意見は出たが、地域行事への参加の在り方等についての意見交換までは話ができなかった。